

信金における地域密着型金融推進の実証分析*

——経営改善支援取組み実績と不良債権処理進捗との相関

青木達彦 池田欽一 六浦光一

要旨

本研究は、地域金融機関がリレーションシップバンキング機能を通じて「地域密着型金融」を機能強化するに当たり、「集中改善期間」とされた平成15年度と16年度の2年間にわたる進捗状況を実証しようとしたものである。そのために関東財務局管内の信用金庫を対象とし、不良債権の処理進捗とそのための経営改善支援取組み実績とりわけ債務者区分間遷移状況を関連付け、不良債権処理の進捗、処理方法の背後で経営改善支援機能がどのように関係しているかを見ようとした。実証の方法としては不良債権の処理進捗を主成分分析によってパターン化し、各主成分について各金庫を得点順に順位付け、他方債務者区分間遷移実績についても、ランクアップやランクダウンについて各金庫を順位付けることにより双方の順位系列を相関させ、順位相関において有意な相関係数を用いることによって各主成分の処理パターンを解釈しようとした。経営改善支援取組み先は、信金全体の取引先の1.6%に過ぎないことから、債務者区分間遷移実績の情報を用いて主成分を解釈しようとして十分な説明を与えられない処理パターンもあったが、主成分によっては不良債権処理の背後で経営改善取組み支援がどのように機能し、もって地域密着型金融推進の実情を理解し、評価する上で有用な結果を得ることができた。今後不良債権の処理進捗を進め、地域密着型金融を推進していく上で、債務者区分間遷移実績を超えて一層の融資先企業と中小企業金融との関係構築を考えていく上でステップに据える研究となることが意図される。